



ほけんだよい

2025年7月
ふじみ保育園
保健室

梅雨明けももうすぐ真夏の日ざしが照り付け、日陰を探して歩く姿が目立ち始めます。日陰、木陰、緑陰、樹陰・・・日の当たらない暗いところの意味の「陰」もこの季節には涼しげに感じます。

7月に入り夏本番！太陽の季節がやってきます。お天気のいい日は、屋上のプールから、テラスから楽しい水遊びの声がしてきます。気温も湿度もぐっと上がります。少しずつ暑さに慣れていくことも、熱中症の予防の大切なポイント（しっかり睡眠をとる・3食しっかり食べる・水分補給をこまめにとる）を守り体調管理に気をつけていきましょう。

7月の目標

水遊びを楽しむ

暑さに負けず元気に遊ぶ



7月の予定

園医健診 25日（金） たんぽぽ

尿再検査（まだ未提出の方も含む） 2日（水）9:15までに提出してください

6月の感染症は、プール熱が全体で1名・胃腸炎が全体で13名感染の報告がありました。全体で発熱と咳・下痢のお子さんが多くいました。これから、夏本番です。夏の感染症も本格的に出てきます。身体が疲れてくると、免疫力も低下して風邪や感染症にも罹りやすくなります。早寝・早起きを心がけて、3食しっかり食べて細菌やウイルスに打ち勝つ身体作りもしていきましょう。また、手洗い・うがいも行い風邪や感染症を予防して行きましょう。

*6月5日（木）と6月13（金）に歯科健診がありました。虫歯の子は、くるみは2名、まつぼっくり1名・しいのみ7名・くすのき4名の合計14名でした。個々に歯科健診の結果を渡しましたので、虫歯のあるお子さんは早めに受診をしてください。また、虫歯になりそう（Co）なお子さんもいたのでよく磨き虫歯にならないようしていきましょう。歯科の高橋先生から「親の仕上げ磨きが大切になります」とお話しがありました。お子さんの健康な歯を保つために仕上げ磨きを行なってあげてください。また、6月17日に3歳児に神田から「虫歯にならないためには」保健指導をしました。どの子も真剣に話をきいて、虫歯にならないためにはどうしたらよいか、みんなで考えながら、虫歯にならないための約束を伝えてます。お子さんに聞いてみてください。しいのみ・くすのきさんは10月に市の歯科衛生士さんに来てもらい保健指導の予定です。

感染症：水いぼについて

水いぼ（伝染性軟属腫）とはどんな病気・・・

- ★ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種で、ぷつぷつとした水疱が体全体に散っていることもあれば、部分的に固まって発症することもあります。
- ★乾燥肌やアトピー性皮膚炎の人が、かかりやすい傾向にあるようです。
- ★**時間はかかりますが自然治癒**します。6カ月から3年程で免疫ができ自然に治りますが、個人差が大きく、いつ治るかを予測することは困難です。
小さい場合は治療する必要はありませんが、ひどい場合は皮膚科で相談してみるのも良いと思います。
- ★プール遊びはできる？・・・**ふじみ保育園では、水いぼがあってもプール遊びはできます。ただし皮膚と皮膚の接触性感染の為にラッシュガードを着用してください。掻き崩して水疱が潰れてジュクジュクしていたりする場合は入れません。爪を短く切り、できるだけ肌をかかない・傷つけないように気をつけましょう。**
- ★潜伏期間・・・2～7週間が多いですが、時には感染から何カ月もたってから症状が現れることがあります。

とびひ



虫刺され、あせも、切り傷、湿疹などを、掻きむしったときにできる傷に黄色ブドウ球菌や連鎖球菌が皮膚に感染して発症します。

- ★原因：黄色ブドウ球菌・連鎖球菌
- ★感染力：非常に強い
- ★治療：抗生物質の内服・ぬり薬
- ★主な症状：細菌でおこる最も多い、皮膚の病気です。
あせもや、虫刺され、すり傷などをかき壊した傷口に、細菌が増殖して全身に広がります。かゆみの強い水疱（水ぶくれ）ができ、掻きむしったりして、水疱が破れ、感染力の強い細菌が飛び散り、急激に広がります。

★注意すること

- ・家族や友だちへの感染を防ぐため、タオルは共有しないようにする。
- ・シクシクが治るまで、プールや水遊びは参加できません。
- ・**爪は短く切り、シャワーなどで皮膚の清潔を保ちましょう。**

※鼻いじりをして、「とびひ」になるケースも多い！

鼻水→鼻孔や鼻の下のただれ→かゆみ→
鼻をいじる→**とびひ！！**

